

魚津市埋蔵文化財
遺跡分布調査報告書

— 1 9 7 3 —

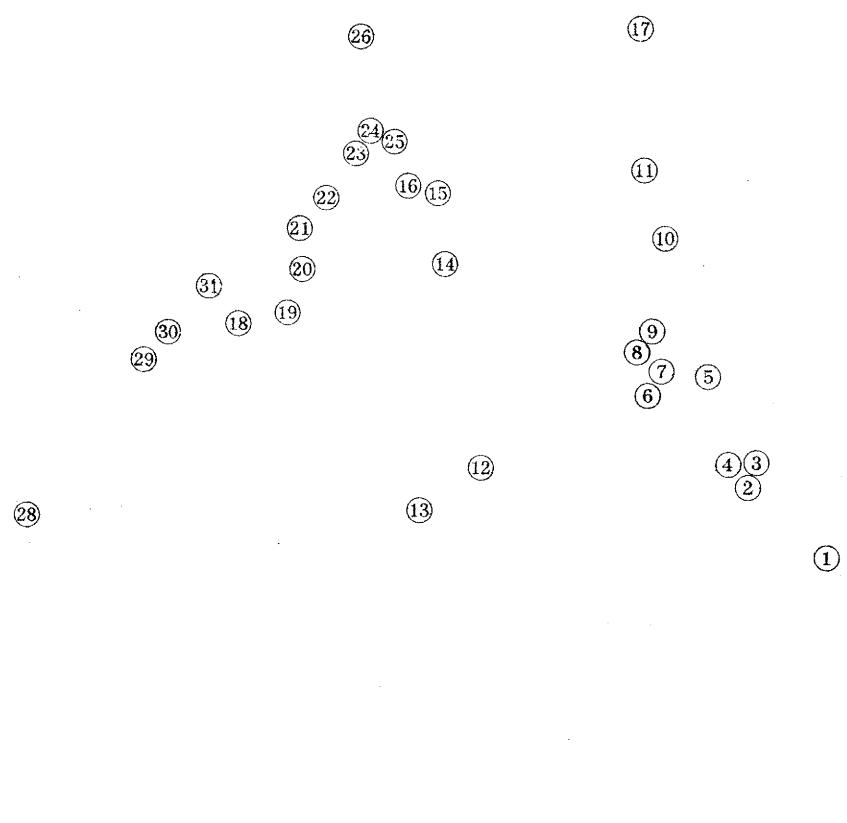
魚津市教育委員会

はじめに

魚津市には埋蔵文化財の遺跡が非常に多く、出出品も繩文時代早期から歴史時代に渡り多く出土しているが、最近の急激な社会開発の進歩につれて次第に破がされつつあります。

又埋蔵文化財が多い割に市民の理解がうすく、埋蔵文化財についての感心を深めることを目的として魚津市教育委員会が魚津考古学研究会に調査を委託したものである。

本書の刊行に当たり、魚津考古学研究会の山本正敏、奥村吉信氏を中心に執筆し、富山県教育委員会文化課主事、橋本正氏の協力を得た事をここに記して謝意を表します。



魚津市埋蔵文化財遺跡分布図





魚津市埋蔵文化財遺跡分布図



魚津市埋蔵文化財所在地一覧表

遺 跡 名	魚津通し番号 (当分布図)	県遺跡地図 通し番号	備 考
黒 沢 遺 跡	1	1,080	縄文中一晩 縄文早一中
桜 峠 遺 跡	2	1,081	県指定
長 引 野 A 遺 跡	3	—	縄文
長 引 野 B 遺 跡	4	—	縄文。中
小 川 寺 観 音 山 遺 跡	5	1,083	縄文。中
吉 兵 衛 平 遺 跡	6	1,087	縄文。中
西 の 川 原 遺 跡	7	1,086	縄文。中
小 川 寺 中 山 遺 跡	8	1,082	縄文。晩
天 神 山 遺 跡	9	1,084	縄文。中
蛇 田 遺 跡	1 0	1,088	縄文中。土師
東 尾 崎 遺 跡	1 1	1,091	縄文中晩。須恵
石 壇 遺 跡	1 2	1,077	縄文中晩。須恵
石 壇 平 遺 跡	1 3	1,078 1,079	縄文中晩。須恵
石 壇 新 遺 跡	1 4	1,076	縄文中
本 江 A 遺 跡	1 5	1,072	縄文中晩。須恵
本 江 B 遺 跡	1 6	1,073	縄文
天 王 寺 遺 跡	1 7	1,093 1,094	須恵。土師
湯 上 遺 跡	1 8	1,060 1,061 1,062	縄文
宮 津 A 遺 跡	1 9	1,064	縄文中
宮 津 C 遺 跡	2 0	—	縄文中

宮津 B 遺跡	2 1	1,063	繩文中
大光寺 遺跡	2 2	1,065	繩文，前，後，須恵
友道 A 遺跡	2 3	1,070	須恵
友道 B 遺跡	2 4	1,071	須恵，土師
友道 C 遺跡	2 5	1,069	須恵，土師
埋没林 遺跡	2 6	1,074	国指定地
鉢 遺跡	2 7	1,047	繩文中，後
升方 遺跡	2 8	1,055	繩文前，中
早月上野 遺跡	2 9	1,057	繩文，中，晚須恵
吉野 遺跡	3 0	1,058	繩文
山下 遺跡	3 1	1,059	繩文，中

1973.3.3 1.調

備考：魚津市通し番号は分布図及び本文と一致す。

目 次

はじめに

魚津市埋蔵文化財遺跡分布図

魚津市埋蔵文化財所在地一覧表

1.) 魚津市の地形	1
2.) 布施川段丘上の遺跡	1
3.) 片貝川	1
4.) 早月川	1
5.) 埋蔵文化財遺跡各説	2
1 黒沢遺跡	2
2 桜峠遺跡	2
3 長引野 A遺跡	3
4 長引野 B遺跡	3
5 小川寺觀音山遺跡	4
6 吉兵衛平遺跡	4
7 西の川原遺跡	4
8 小川寺中山遺跡	4
9 天神山遺跡	5
10 蛇田遺跡	5
11 東尾崎遺跡	6
12 石垣遺跡	6
13 石垣平遺跡	7
14 石垣新遺跡	7
15 本江 A遺跡	7
16 本江 B遺跡	8
17 天王寺遺跡	8
18 湯上遺跡	8
19 宮津 A遺跡	9
20 宮津 C遺跡	9
21 宮津 B遺跡	10
22 大光寺遺跡	10
23 友道 B遺跡	10
24 友道 C遺跡	11
25 友道 A遺跡	11
26 埋没林遺跡	11
27 鉢 遺 跡	11
28 升方 遺跡	12
29 早月上野遺跡	12
30 吉野遺跡	13

3.1	山下遺跡	13
6.)	遺跡包蔵地図	14
1	黒沢遺跡	14
2	桜崎遺跡	14
3	長引野A遺跡	15
4	長引野B遺跡	15
5	小川寺觀音山遺跡	15
6	吉兵衛平遺跡	16
7	西の川原遺跡	16
8	中山遺跡	16
9	天神山遺跡	17
10	蛇田遺跡	17
11	東尾崎遺跡	18
12	石垣遺跡	18
13	石垣平遺跡	19
14	石垣新遺跡	19
15	本江A遺跡	20
16	本江B遺跡	20
17	天王寺遺跡	20
18	湯上遺跡	21
19	宮津A遺跡	21
20	宮津C遺跡	21
21	宮津B遺跡	22
22	大光寺遺跡	22
23	升方遺跡	23
24	早月上野遺跡	23
25	吉野遺跡	24
26	山下遺跡	24
7.)	魚津市考古関係文献目録一覧	25

魚津市の埋蔵文化財の分布概要

1 魚津市の地形

魚津市は立山連峰が最も富山湾にせり出す所に位置し、平野部は割合少い。市内には北から南へ順に布施川、片貝川、角川、早月川の各河川が流れている。これらの各河川は立山連峰に源を発し、山地に深いV字谷を刻む。そして平野部に出て、富山湾に注ぐまでに扇状地形を形成する。扇状地の中央を流れる河川の両岸には数段の河岸段丘が形成されている。遺跡はこの河岸段丘上あるいは河岸段丘がゆるく沖積面に没しようとするあたりに存在する。

2 布施川段丘上の遺跡

布施川の左岸には現河床面を別にして2段の段丘面が見られる。下位段丘面は長引野をのせる面で黒沢遺跡がある。^① 上位段丘上には桜井遺跡や小川寺観音山遺跡がある。^② ^⑤ これとほぼ高さの等しい段丘面が天神山の北方に広がり、西側を片貝川にけずられる。^⑨ この段丘上にも遺跡がみられる。天神山の麓には縄文時代中期の大遺跡である天神山遺跡があり、北西1kmの地点^⑩ には蛇田遺跡が、^⑪ 段丘北端部崖下には東尾崎遺跡がある。また小川寺部落の南側の台地上にも、^⑬ 小川寺中山遺跡、^⑧ 西の河原遺跡、^⑥ 吉兵衛平遺跡などがある。

3 片貝川段丘上の遺跡

片貝川の左岸にも顯著な河岸段丘がみられる。ここにも現河床面を別にして2段の段丘面がみられる。^⑫ 下位段丘面は石垣や石垣新、印田等をのせる面で、最奥部に石垣遺跡が、かなり下^⑯ って石垣新遺跡がある。^⑭ またその末端部、沖積面に没しようとするところに本江A、B遺跡がある。^⑮ これより一段高い段丘面は大海寺野、大海寺新等をのせる面で、北側はなだらかに沖積面に没し、^⑯ 西側は角川に浸食されて急な段丘崖となっている。^⑰ この段丘上の最奥部には石垣平遺跡がある。^⑲ 西側の角川を見下す段丘崖線にそって大光寺遺跡や宮津A、B、C遺跡がある。^⑳ ^㉑ またこの段丘面南側の一帯高いかなり開析が進んだ、丘陵の中に湯上遺跡がある。^㉒ 海岸線近くの遺跡としては友道A、B、C遺跡、埋没林遺跡、天王寺遺跡がある。

4 早月川段丘上の遺跡

早月川は滑川市との境界となっている。この早月川の右岸には中流部及び下流部に細長い河岸段丘が形成され、鉢遺跡、升方遺跡がある。河口に近づくとこの段丘面は幅1km程に広がる。

り、東側を角川によって切られる。そしてなだらかに沖積面に没する。この段丘面のほぼ中央
に早月上野遺跡が、⁽²⁹⁾ 角川に面する段丘崖直上に山下遺跡、⁽³⁰⁾ そして早月上野遺跡の北 $700m$ に
は吉野遺跡がある。⁽³¹⁾

遺 跡 概 要

1 黒沢遺跡（第1図）

○ 位 置

魚津市の北東を流れる布施川の左岸に形成される河岸段丘上に位置する。段丘は大まかに2段みられるがそのうちの下位段丘上である。黒沢部落の北にある小社の周囲一帯が遺跡である。北を布施川、東西を小さな浸食谷によって区切られる舌状台地の基部にあたる。遺物はかなり広い範囲から採集されるが特に社の周囲は著しい。

○ 調査略史

昭和11年発行の「越中史前文化」（早川莊作著）に、土偶発見地として登場するから、戦前から知られている遺跡である。1973年にこのあたり一帯には場整備事業が行なわれ、多数の遺物が散乱しているのが発見され、同年3月に散乱している遺物の採集が行なわれた。

○ 遺 物

縄文式土器——前期、中期、後期（氣屋式、酒見式、はりこぶ文）晚期。

石 器——打製石斧、磨製石斧、砥石（石皿）石鎌、石錐、玉類、石刀、石劍。
土偶、土鍾。

○ 所 藏 猪津市教育委員会

2 桜峠遺跡（第2図）

○ 位 置

長引野部落の南側、なだらかな起伏の続く丘陵上にある。通称桜峠と呼ばれる所で、御影部落へ通じる農道の両側に広がる。遺跡のすぐ北側に湧水がある。遺物の散布範囲はかなり広く、 $200m$ 以上にもおよぶ。

○ 調査略史

遺跡が発見されたのはかなり古く、明治時代にさかのぼる。戦前には押型文土器が富山県としてははじめて発見され、学界に報告された。戦後昭和35～36年にかけて学術的発掘

調査が行なわれ、数十片の押型文土器と縄文中期の遺構や遺物が発見された。1966年頃に農道が作られ、遺跡の一部が破壊された。その為道路のカッティングに堅穴住居跡が数個あらわれている。

○ 遺 物

遺物は小川寺光学坊に保管されている。

縄文式土器 ——— 早期(桜峠Ⅰ式、同Ⅱ式)中期(新崎式、上山田式、古府式、串田新式)。

石 器 ——— 打製石斧、磨製石斧、石錘、凹石、砥石(石皿)、石鏃、石錘、玉類、石槍。

滑車型耳飾。

○ 住 居 址

3 長引野A遺跡(仮称)(第3図)

○ 位 置

桜峠遺跡から続く、なだらかな起伏のある丘陵上にある。桜峠遺跡の西方約500mの地点である。遺物散布個所は農道の北側と、南側の谷に近い畑の二ヶ所が認められた。

○ 調査略史

1973年3月、分布調査によって発見された。

○ 遺 物

縄文式土器(中期)

石器 ——— 石鏃

4 長引野B遺跡(仮称)(第4図)

○ 位 置

長引野A遺跡の西100mの地点である。同じ丘陵上にある。桜峠遺跡から続く農道の曲り角附近から西方にかけて遺物の散布がみられる。なお、北側の斜面にも遺物がかなり散布している。

○ 調査略史

1973年3月に分布調査によって発見された。

○ 遺 物

縄文式土器 ——— 中期(新保式、その他)

石 器 石鎌

5 小川寺觀音山遺跡（第5図）

○ 位 置

布施川左岸の高位段丘上にある。小川寺部落の北側で、千光寺の裏手の崖上の墓地の付近である。ブドウ畠となっていたり、表土が厚いなどにより、遺跡の範囲は不明。

○ 調査略史

1959年発行の「天神山遺跡調査報告書」に周辺遺跡として紹介されている。

○ 遺 物

縄文式土器

6 吉兵衛平遺跡（第6図）

○ 位 置

小川寺部落の南東の台地上に位置する。天神山の東1Kmの地点である。現在はゴルフ場となっており、遺跡の範囲はあまりよくわからない。

○ 調査略史

1959年発行の「天神山遺跡調査報告書」に周辺遺跡として紹介されている。それによると、縄文前期及び後期のものが出土しているという。

○ 遺 物

縄文式土器——前期，後期

7 西の川原遺跡（第7図）

○ 位 置

吉兵衛平遺跡と谷をはさんで、西側の台地上にある。現在はゴルフ場になっている。

○ 調査略史

1968年頂分布調査にて発見。

○ 遺 物

縄文式土器

石 器——磨製石斧

8 小川寺中山遺跡（第8図）

○ 位 置

天神山の東約 500m。道路の横の畠地である。遺物の散布範囲は割り合狭い。道路カッティングから遺物が採集されるという。現在はゴルフ場となっている。

○ 調査略史

1959年発行の「天神山遺跡調査報告書」に周辺遺跡として紹介されている。それによると縄文後期の土器が出土するという。

○ 遺 物

縄文式土器——後期? (山本正敏)

9 天神山遺跡 (第9図)

○ 位 置

天神山の北東の幅 150m, 長さ 200m 程の舌状台地の上に位置する。台地のはば全面が遺跡と思われる。沖積面との比高は約 40m, 切り立った崖となっている。台地南側斜面には湧水がみられる。現在はブドウ畠となっている。

○ 調査略史

この遺跡発見の歴史は古い。江戸末期には遺物の出土が認められ、明治中頃には古代の遺跡であることが判明した。その後、当時の著名な考古学者坪井正五郎が本遺跡を訪れ、調査を実施している。遺物のほとんどは旧制魚津中学に保管されていたが、火災により消失した。

1958年に富山県教委と魚津市教委により発掘調査が行なわれ、北陸の縄文中期の編年の標式ともいうべき土器資料が得られた。

○ 遺 物

遺物は小川寺光学坊に保管されている。

縄文式土器——中期(新崎式, 上山田式, 古府式, 串田新式, 天神山式)

石 器——打製石斧, 磨製石斧, 石錘, 凹石, 砥石, 石皿, 石鎌, 石ヒ, 石槍, 石棒, 玉類。

滑車型耳飾

○ 住 居 址

10 蛇田遺跡 (第10図)

○ 位 置

北側を布施川, 南側を片貝川で切られ, 天神山の麓より細長くのびる段丘の, 布施川に面

する段丘崖線上に位置する。蛇田部落に向って細長くつき出た、舌状台地のほぼ全域が遺跡である。墓地、炮等である。

○ 調査略史

大正時代から遺跡であることが知られていた。

○ 遺物

縄文式土器——中期

石器——打製石斧、磨製石斧、石鎌。（奥村吉信）

11 東尾崎遺跡（第11図）

○ 位 置

天神山より細長くのびる段丘の先端部崖下である。沖積面よりごくわずかに高いだけである。水田となっている。遺跡の範囲は $100m \times 50m$ におよぶものと思われる。

○ 調査略史

この遺跡が最初に発見されたのはいつかわからない。昭和38年前後に佐渡忠作氏、牧野氏らによって一部試掘が行なわれ、「天神山郷土考」に紹介されている。1968年ほ場整備事業が行なわれ、遺跡の一部が破壊され、多数の遺物が採集されたが、幸い耕作土が厚く、遺跡の大部分は残されているようである。

○ 遺 物

縄文式土器——中期（新崎式、上山田式、古府式、串田新式、）後期（気屋式、酒見式、はりこぶ文）晚期。須恵器。

石器——打製石斧、磨製石斧、石鍤、凹石、砥石（石皿）石鎌、石錐、土偶、土鍤。

12 石垣遺跡（第12図）

○ 位 置

片貝川左岸の低位段丘で最奥部にある。石垣地内の社の周囲から北方にかけて遺跡で、 $200m$ 以上ある。現在は水田となっている。

○ 調査略史

この遺跡の発見は明治時代にさかのぼる。それ以来多くの研究者、好事家がおとづれている。近年付近一帯には場整備事業が行なわれることとなり、1970～71年にわたり事前の発掘調査が行なわれ、縄文時代の集落跡、中世の寺院跡などが発見された。

○ 遺 物

繩文式土器——中期(新崎式, 上山田式, 古府式, 串田新式)後期(気屋式, 酒見式,
はりこぶ文)晚期(勝木原式, 御経塚式)須恵器。

石 器——打製石斧, 磨製石斧, 石錘, 凹石, 砥石(石皿)すり石, 石礫, 玉類,
石冠, 石棒, 石刀

土偶, 土錘, 滑車型耳飾

○ 住 居 址

13 石垣平遺跡(第13図)

○ 位 置

石垣遺跡の南側, 高位段丘上にある。低位段丘面との比高約40m。遺物の散布範囲は,
あまりはつきりしないが, 二ヶ所みられ, かなり広いと思われる。地目は畠及び水田。

○ 調査略史

1969年頃分布調査にて発見。

○ 遺 物

繩文式土器, 須恵器。

14 石垣新遺跡(第14図)

○ 位 置

片貝川左岸の低位段丘上にある。石垣遺跡の北西約2.5kmの地点である。地目は水田及
び畠で, 遺跡の範囲は不明。

○ 調査略史

1971年に分布調査によって発見された。

○ 遺 物

繩文式土器

石 器——打石斧, 石錘, 砥石(奥村吉信)

15 本江A遺跡(第15図)

○ 位 置

片貝川左岸の低位段丘の先端部, 沖積面に没しようとするところにある。石垣新遺跡の北
西約1.5kmである。遺跡の南側は深い谷となっており, 魚津市営グランド及び野球場であ

る。遺跡はバックネット裏側から三塁側斜面上の水田にかけてである。

○ 調査略史

1965年前後に、グランド設置とともにあって駐車場が作られた。その為に遺跡の一部が破壊され、遺跡が発見された。

○ 遺 物

縄文式土器——中期、後期、晩期（勝原式、下野式）。須恵器。

石 器——打製石斧、磨製石斧、砥石（石皿）、石鉄、石鋸、玉類、石棒。

16 本江B遺跡（第16図）

○ 位 置

本江A遺跡とは谷（グランド）をはさんで南側の段丘先端部に位置する。遺跡の範囲は狭いものと思われる。

○ 調査略史

1968年に分布調査によって発見された。

○ 遺 物

縄文式土器

17 天王寺遺跡（第17図）

○ 位 置

片貝川の左岸、河口近くで、国鉄北陸本線と富山地方鉄道線のほぼ中間にある天王寺団地の南方に位置している。海岸線より約500mである。沖積平野の中でわずかに高くなっている地点である。

○ 調査略史

いつごろ発見されたのかわからないが、1968年に行なわれた魚津市郷土資料展に本遺跡出土の須恵器が出品されている。

○ 遺 物

須恵器、土師器

18 湯上遺跡（第18図）

○ 位 置

片貝川左岸の高位段丘の南東部の丘陵、西端にある。角川よりおよそ500m程登った所

で水田に利用されている深く切り込んだ谷の奥に位置する。まわりはすべて山に囲まれている。遺跡の範囲は $10\text{m} \times 10\text{m}$ 程で小さな遺跡である。

○ 調査略史

1971年に分布調査で発見された。

○ 遺物

縄文式土器

石器——磨製石斧、石鎌

(注) A・B・二ヶ所あり

19 宮津A遺跡(19図)

○ 位 置

角川の右岸、支流によって形成された舌状台地の先端に位置し、河口からおよそ 2.5Km 上流。河床との比高は約 3.5m 。宮津部落の東方斜面を登りきると、一面に水田が開け、本遺跡となっている。遺跡の範囲は $20\text{m} \times 40\text{m}$ 程である。

○ 調査略史

1969年に分布調査によって発見された。1972年に、ほ場整備事業の為に破壊された。

○ 遺 物

縄文式土器——中期(新崎式、上山田式)

石 器——打製石斧、磨製石斧、石鍤、砥石(石皿)凹石、石鎌。

20 宮津C遺跡(第20図)

○ 位 置

角川右岸の舌状台地上にある。宮津A遺跡とは深い谷をはさんで北側に位置する。遺物散布範囲は約 $50\text{m} \times 20\text{m}$ 程である。

○ 調査略史

1972年に分布調査によって発見され、同年に行なわれた、ほ場整備事業によって破壊された。またその時、炉跡が認められた。

○ 遺 物

縄文式土器——中期(新崎式、天神山式、串田新式)

石 器——打製石斧、磨製石斧、砥石(石皿)凹石、石棒。

21 宮津B遺跡(第21図)

○ 位 置

片貝川左岸の高位段丘の両端が角川によって浸食される段丘崖線上に位置する。角川の河口より約2km上流の地点である。遺跡の範囲ははっきり認めることはできないが、約10m×10m程でいたって小さな遺跡である。

○ 調査略史

1971年に分布調査によって発見される。発見当時はすでに、ほ場整備事業のために、破壊されてしまった後で、わずかな量の遺物だけによって遺跡が確認できるにすぎない。

○ 遺 物

縄文式土器。

石 器——磨製石斧

22 大光寺遺跡(第22図)

○ 位 置

この遺跡も、片貝川左岸の高位段丘の西端が角川によって浸食される段丘崖線上に位置する。宮津墓地公園とは谷をはさんで北側の台地上である。地目は水田及び果樹園である。遺跡の範囲は100m以上におよぶ。

○ 調査略史

1964年前後に偶然馬高式土器が一個体掘り出され注目されたようになったのが最初である。1966年3月と1967年3月に遺跡の一部が発堀され、縄文中期土器の好資料と住居跡1軒が発見された。

○ 遺 物

縄文式土器——前期、中期(新崎式、上山田式、古府式、串田新式)須恵器

石 器——打製石斧、磨製石斧、石錘、凹石、砥石(石皿)石鎌、石槍。

住居址

23 友道B遺跡

○ 位 置

友道A遺跡の東約200m、魚津スターレーン(ボーリング場)のあたりである。

○ 調査略史

1967年にボーリング場建設の基礎工事が行なわれた。その際、土器が出土し、遺跡で

であることがわかった。

○ 遺 物

土師器，須恵器。

24 友道C遺跡

○ 位 置

友道B遺跡の北方約300mの地点である。人家の庭内であり、範囲は不明。

○ 調査略史

1968年頃、中学生の知らせによって知った。

○ 遺 物

土師器，須恵器

25 友道A遺跡

○ 位 置

片貝川段丘の先端部が沖積面に没してしまったところに位置する。魚津市立西部中学校グランドの東側、プールの周辺である。

○ 調査略史

かなり以前にプールを構築した際、須恵器が出土したという。現在でもプール周辺より時おり、須恵器片を採集することができる。

○ 遺 物

須恵器

26 埋没林遺跡

○ 位 置

魚津市の海岸部、魚津港の北方にある。海面下の遺跡である。

○ 調査略史

昭和初期、魚津港築港とともに掘鑿で、多くの埋没林とともに土器が出土した。

○ 遺 物

縄文式土器——後期(はりこぶ文)。

27 鉢 遺 跡

○ 位 置

滑川市との境界となっている早月川の河口から 10 Km 上流の右岸河岸段丘上にある。このあたりの河岸段丘は早月川と山塊との間に細長く形成されている。遺跡は白倉小学校の背後の段丘で、最上段にある。地目は水田である。遺物の散布範囲はあまり広くなさそうである。

○ 調査略史

この遺跡がいつごろ発見されたのかはわからない。

○ 遺 物

遺物は白倉小学校に少し保管されている。

縄文式土器——中期（古府式，串田新式）

石 器——打製石斧，磨製石斧

28 升方遺跡（第23図）

○ 位 置

早月川の上流 6 Km の右岸、河岸段丘上にある。早月川を見下す段丘崖直上にあり、河床との比高は約 25 Km。地目は水田。

○ 調査略史

1966年春、段丘崖の一部が崩壊した。そして、土器や石器が多数散乱しているのを発見した地元の中学生の通報により、遺跡の存在があきらかになった。その後、十数度にわたる遺物採集が行なわれ、多数の遺物が採集されている。

○ 遺 物

縄文式土器——前期、中期（新保式、新崎式、上山田式、古府式、串田新式）

石 器——打製石斧、磨製石斧、石鍾、砥石（石皿）、凹石、石鎌。

29 早月上野遺跡（第24図）

○ 位 置

西側を早月川に、東側を角川に切られた幅 1 Km 以上の、平坦な洪積台地の上に位置する。上野部落の東側、小さな社の裏手、東側一帯が遺跡である。地目は水田であり、遺跡の範囲はあまりはっきりしないが、100m × 100m 以上はあるものと思われる。

○ 調査略史

本遺跡の発見はかなり古く、下新川郡史稿上巻（1909）によると明治35年（1902）

に道路を作った際に石器が発見されたのがその最初らしい。それ以来、多くの研究者、好事家が訪れ、遺物を採集している。1969年に遺跡の範囲確認の為、一部試掘が行なわれた。

○ 遺 物

縄文式土器——中期（新崎式、上山田式、古府式、串田新式）後期（気屋式、酒見式、はりこぶ文）晩期（勝木原式、御経塚式？）須恵器。

石 器——打製石斧、磨製石斧、砥石（石皿）凹石、石鍤、石鎌、石錐、石棒、石刀、石劍、石鋸。

30 吉野遺跡（第25図）

○ 位 置

早月上野遺跡と同じ段丘上にのる。上中島小学校の東方。早月上野遺跡の北700mの地点にある。地目は水田となっており、遺跡の範囲は明確でないが、30m×50m程度はあるものと思われる。

○ 調査略史

この付近一帯は1970～72年にかけて、ほ場整備事業が行なわれた。その為に地下に眠る遺物が地表にあらわれることとなった。1973年、散乱している土器が発見されて、遺跡であることが確認された。

○ 遺 物

縄文式土器

31 山下遺跡（第26図）

○ 位 置

早月上野遺跡と同じ台地上、東側の角川を望む段丘崖線上に位置する。小さな舌状台地の基部一帯が遺跡である。角川の河床との比高は10m。地目は水田で、遺跡の範囲は10m×10m程である。

○ 調査略史

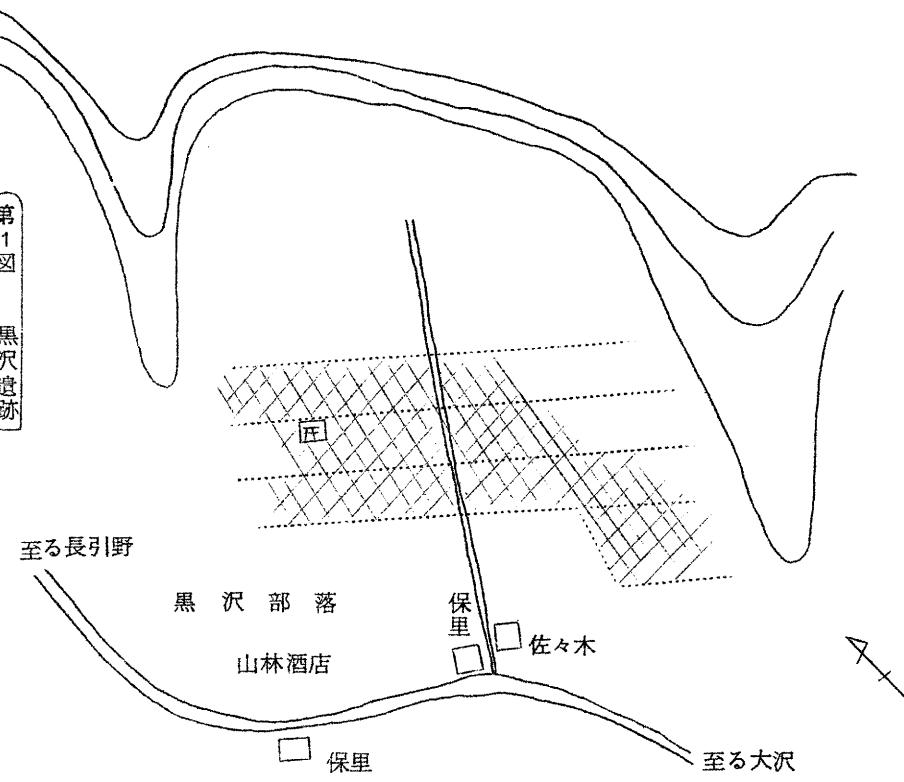
1971年に分布調査によって発見された。

○ 遺 物

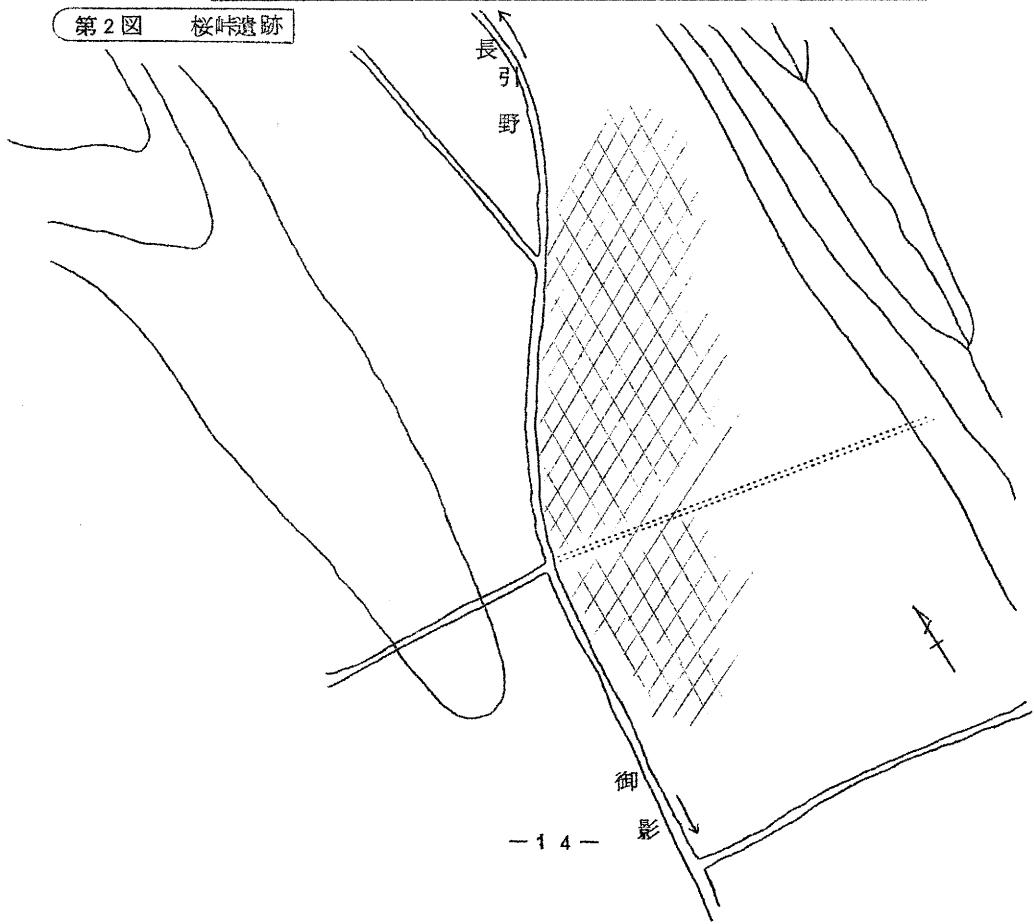
縄文式土器。

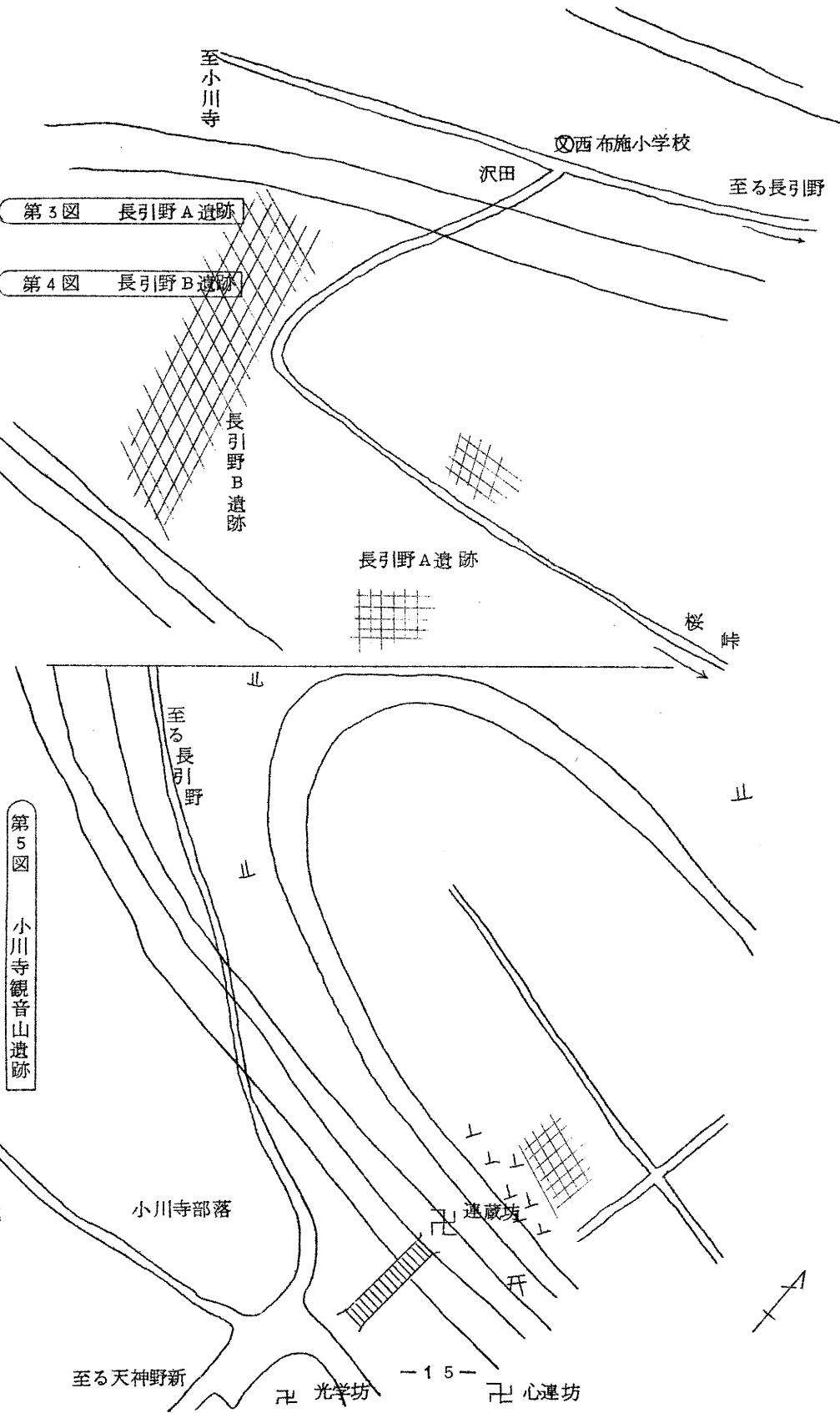
石 器——打製石斧。

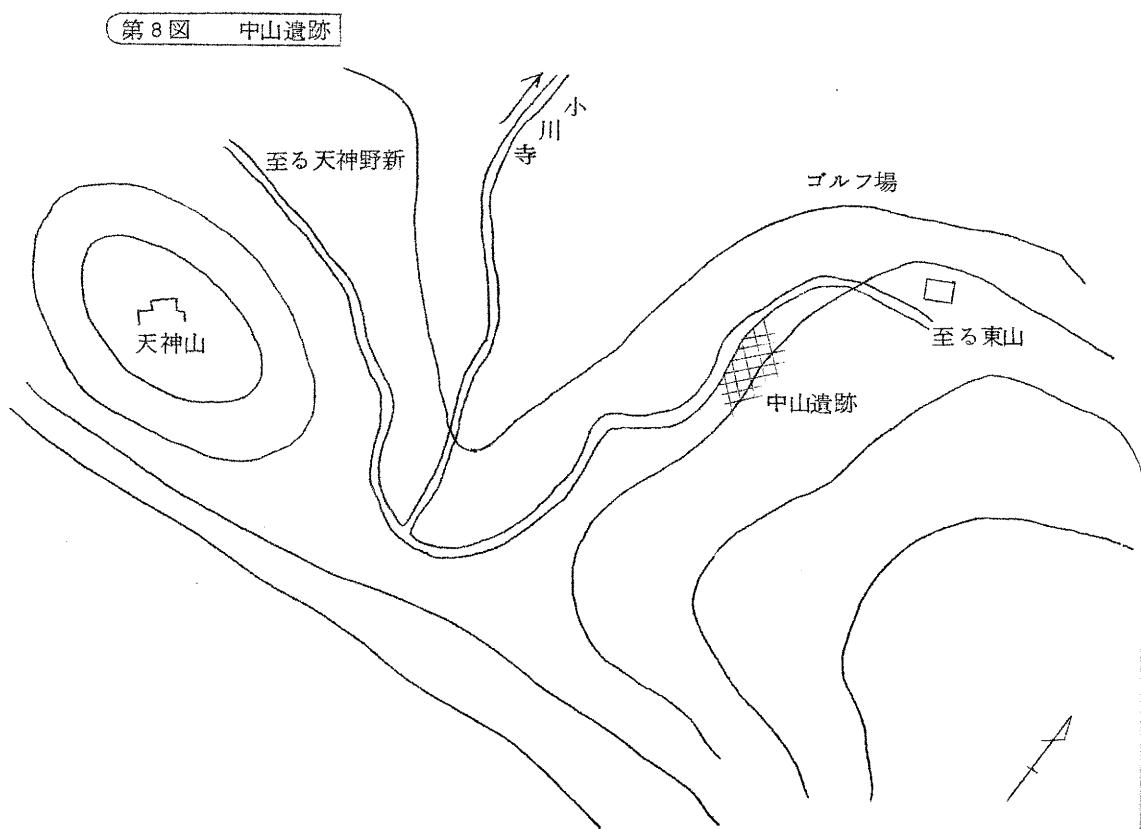
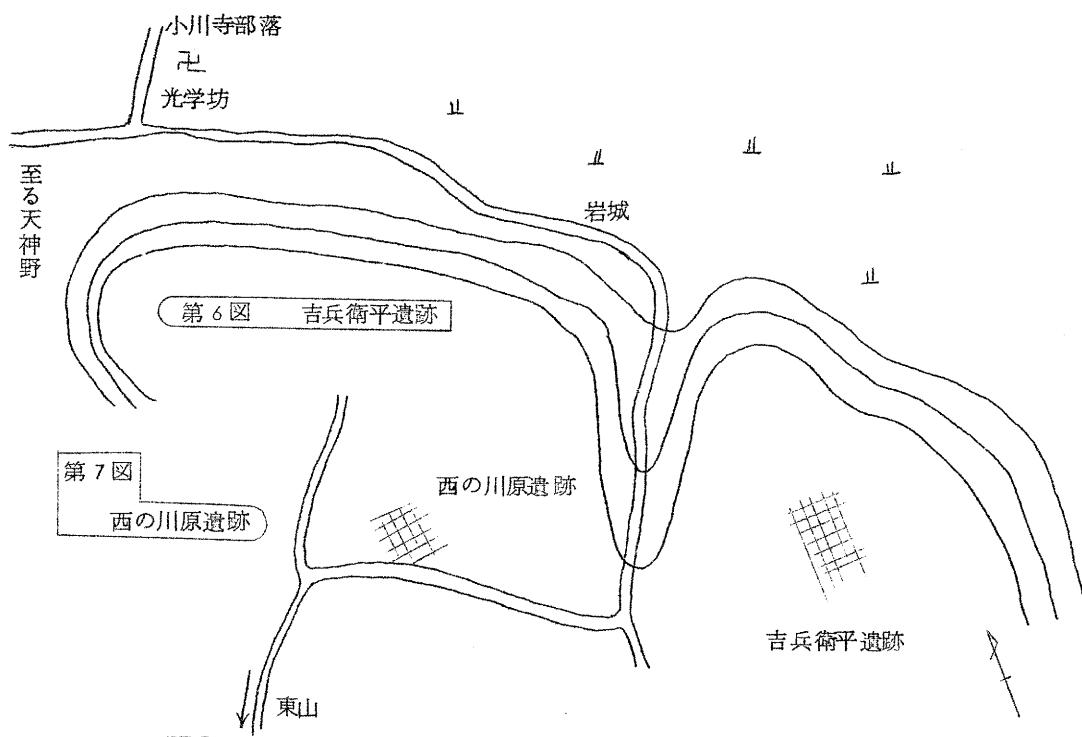
第1図 黒沢遺跡



第2図 桜崎遺跡







第9図

天神山遺跡

至る天神野新

武田
横超

大森

天神山

至る小川寺

至る東山

ゴルフ場

止

止

止

止

止

止

止

第10図 蛇田遺跡

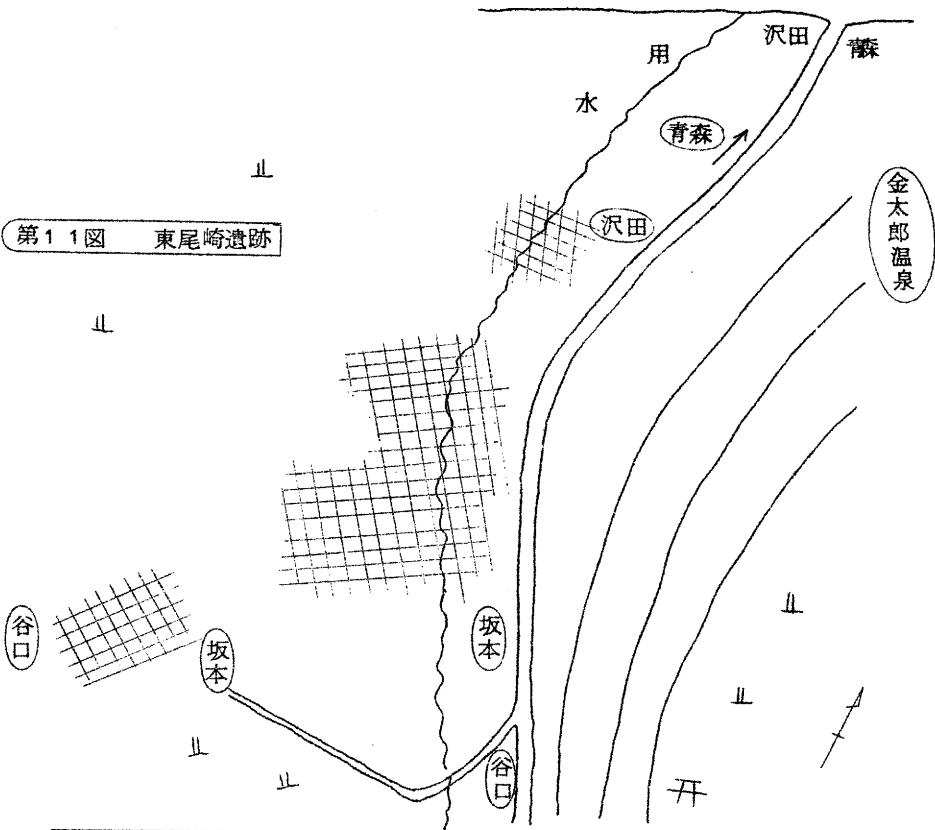
金太郎温泉

蛇田部落

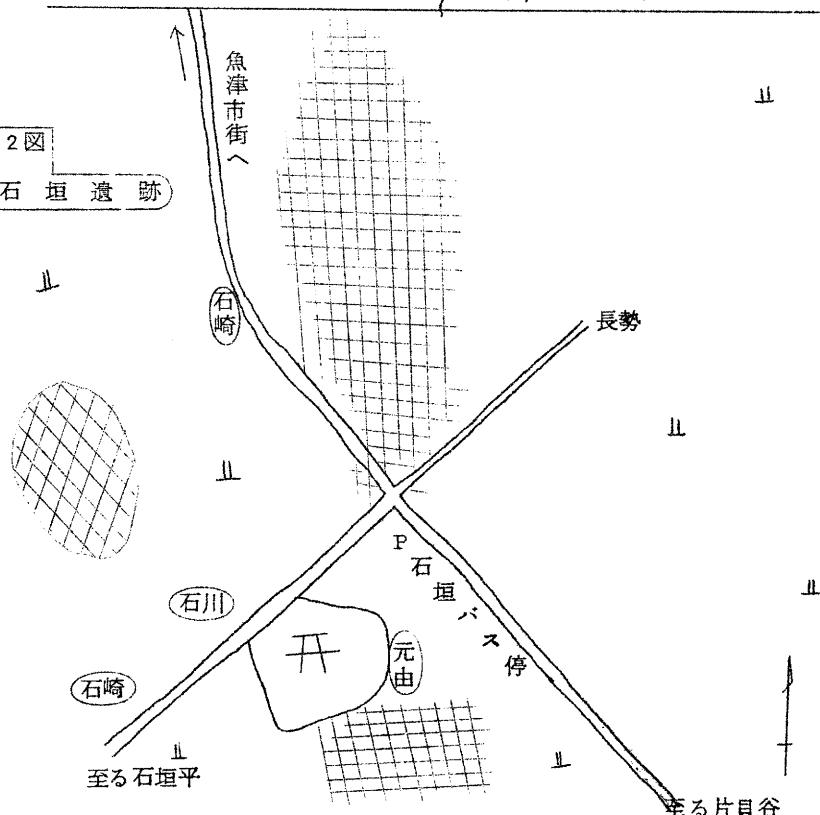
关口杉次郎

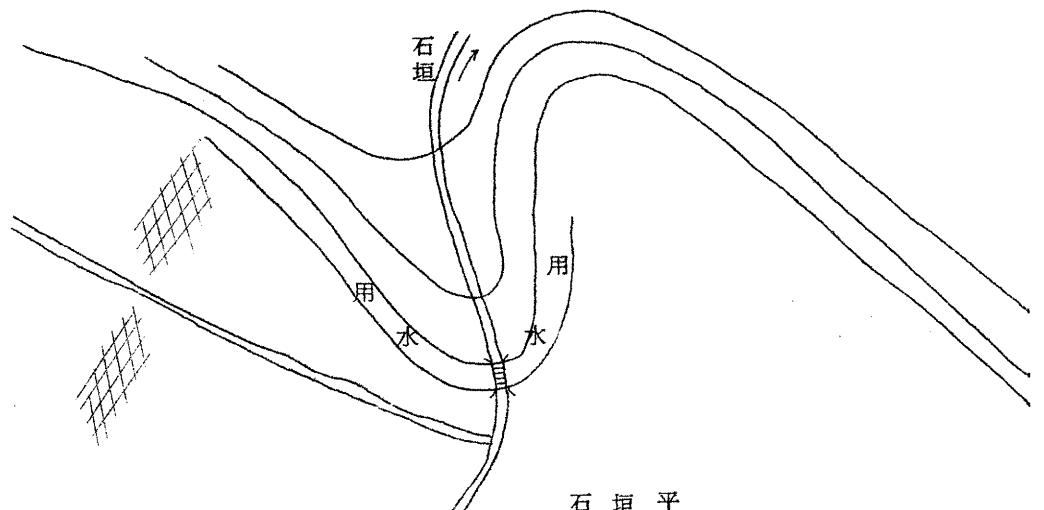
天神野新部落

第11図 東尾崎遺跡

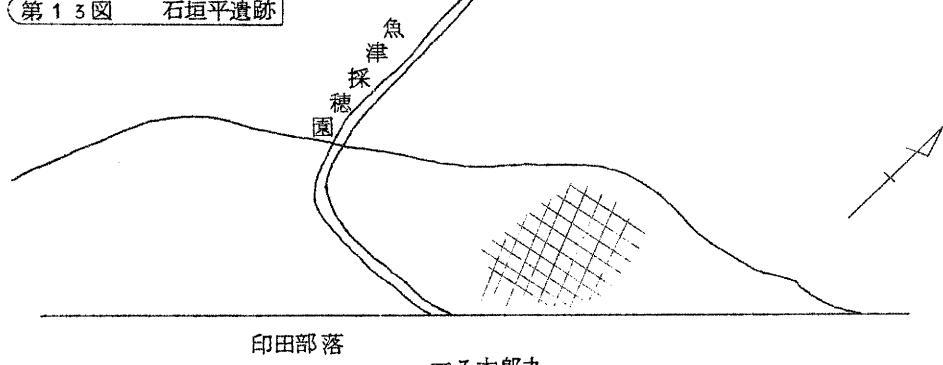


第12図
石垣遺跡





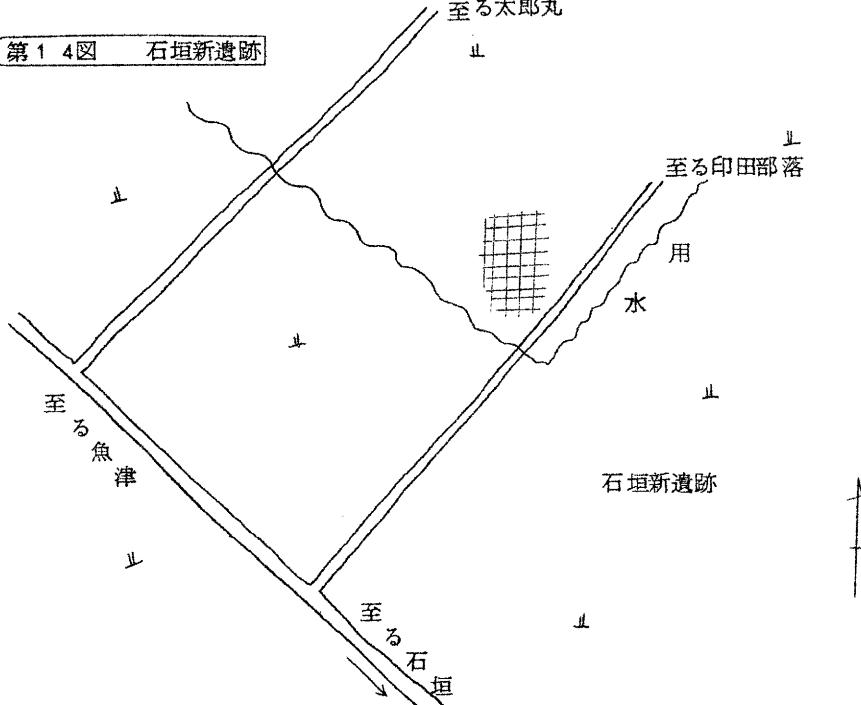
(第13図) 石垣平遺跡

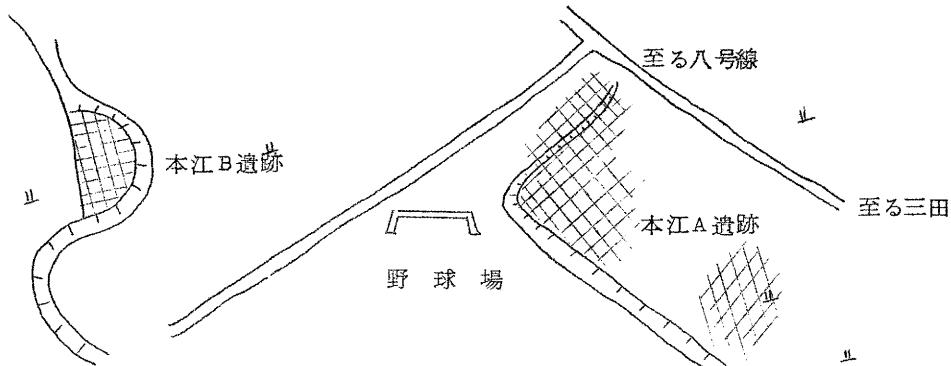


印田部落

至る太郎丸

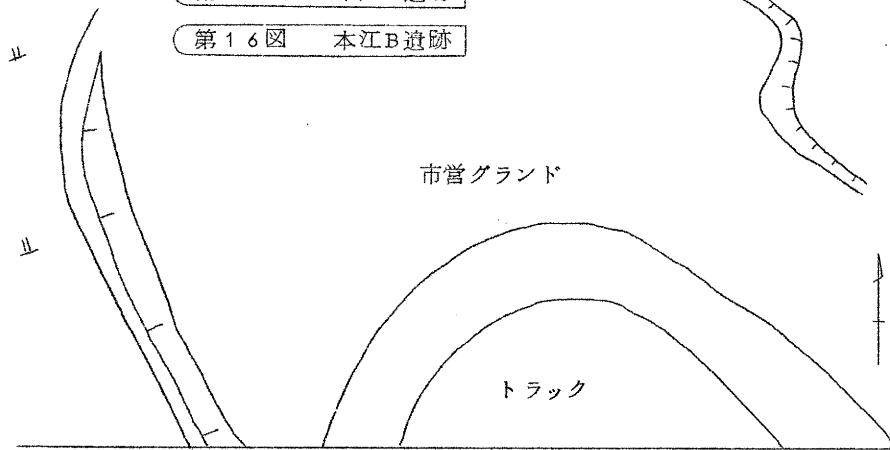
(第14図) 石垣新遺跡



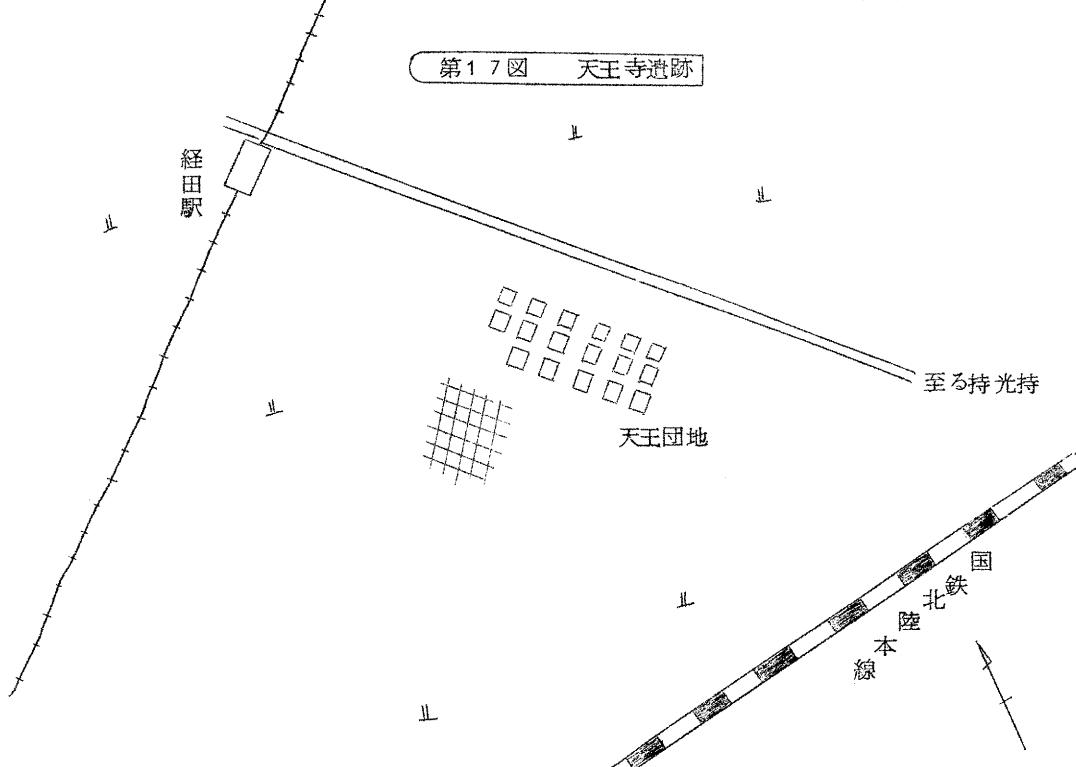


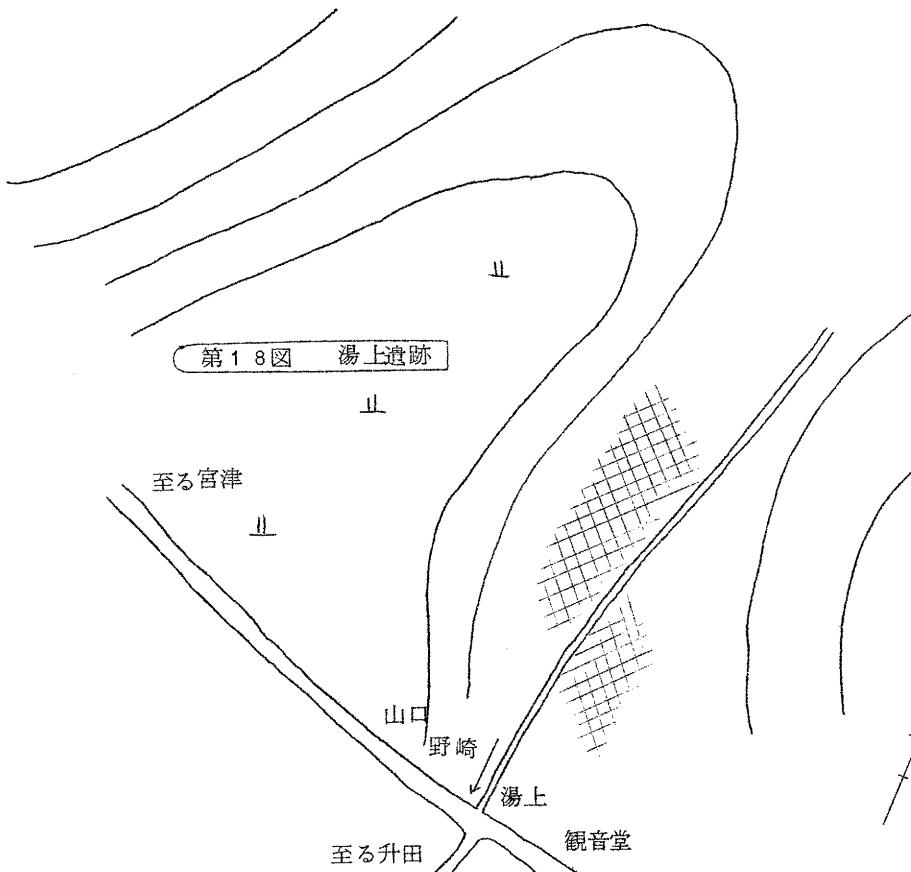
第15図 本江A遺跡

第16図 本江B遺跡

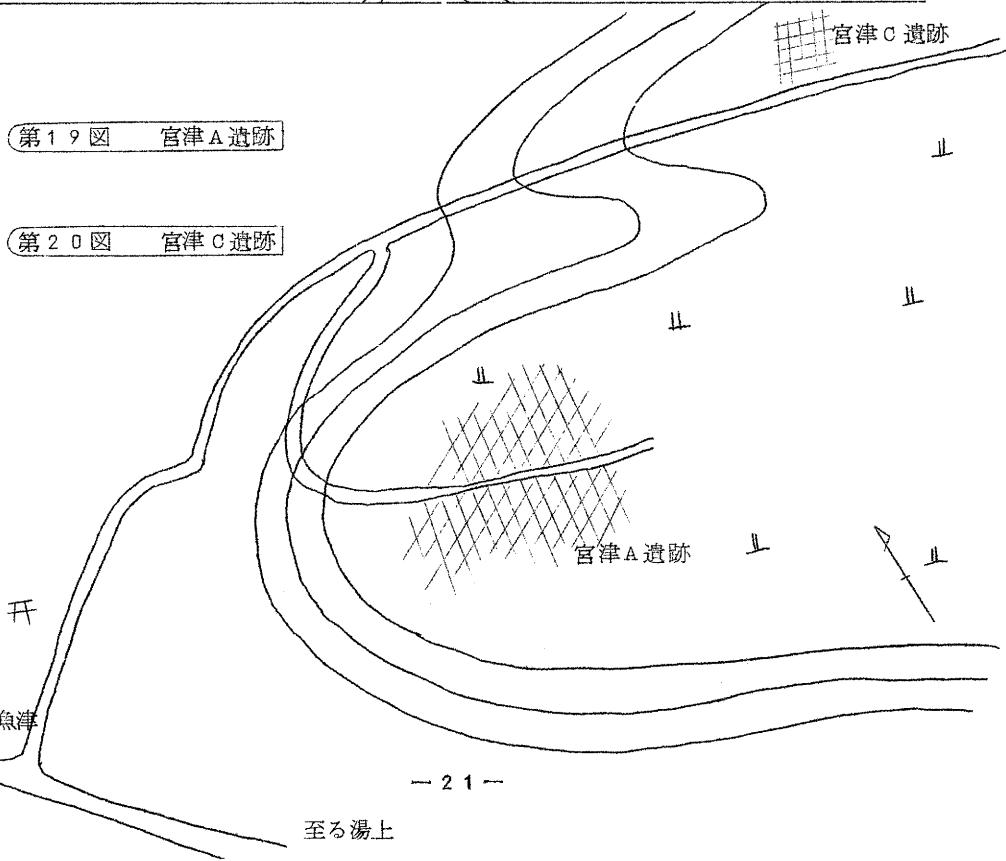


第17図 天王寺遺跡





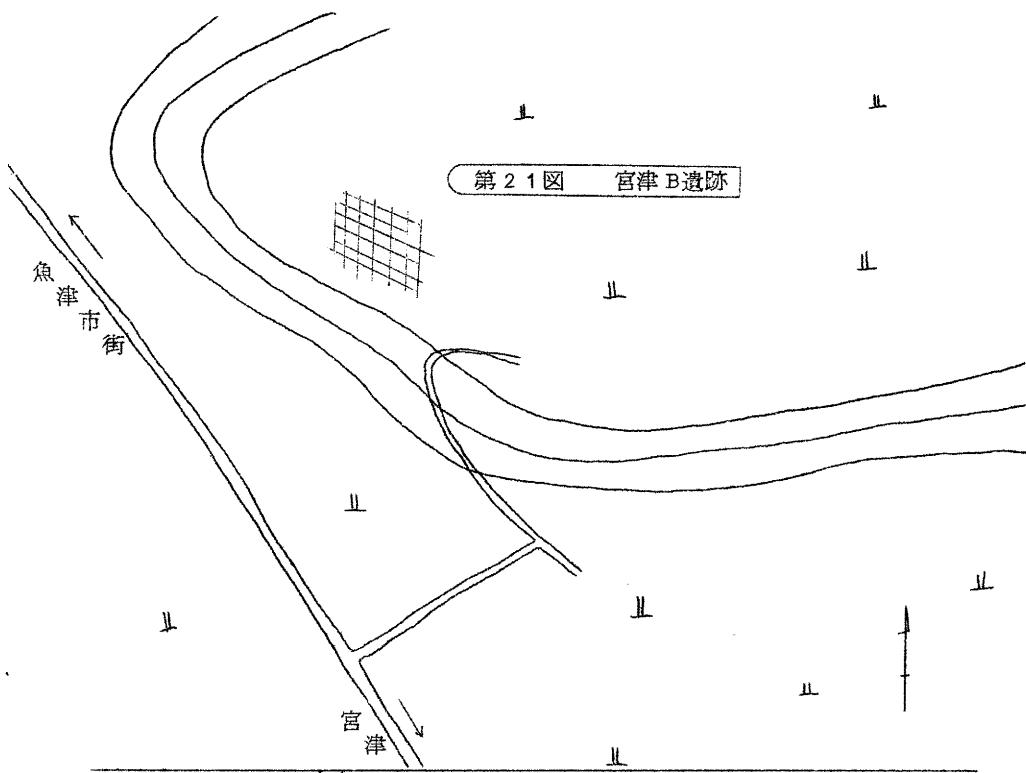
第18図 湯上遺跡



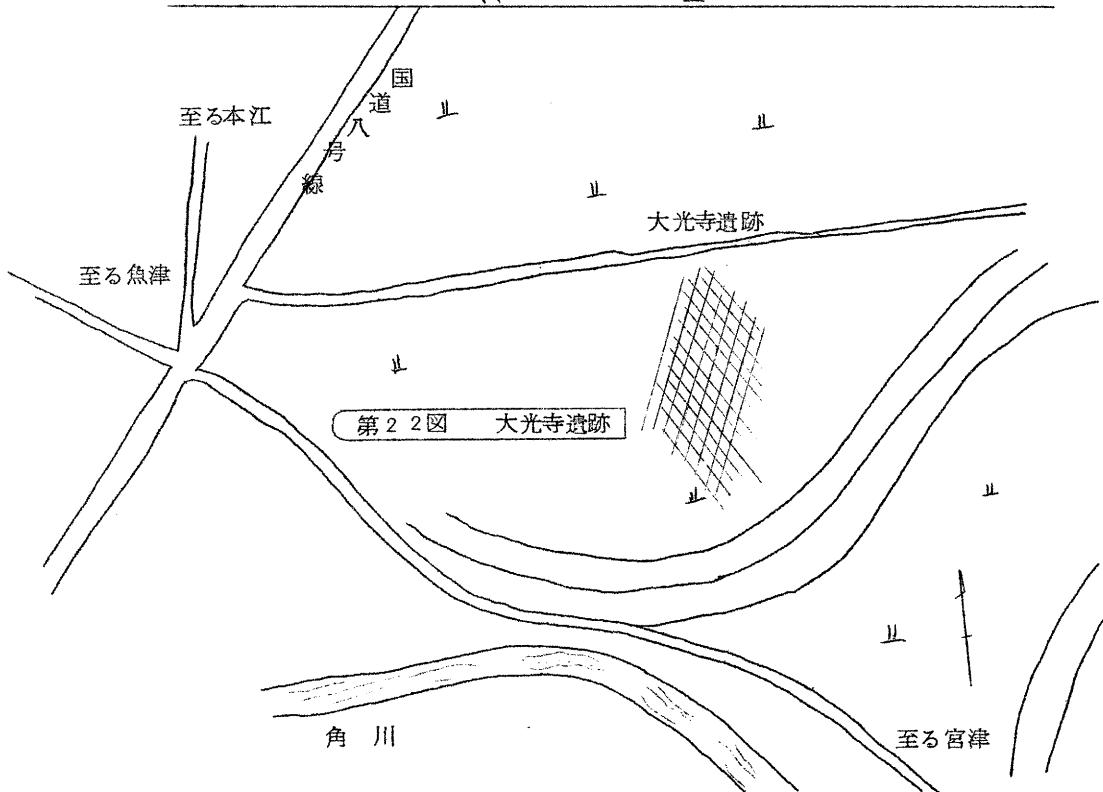
第19図 宮津A遺跡

第20図 宮津C遺跡

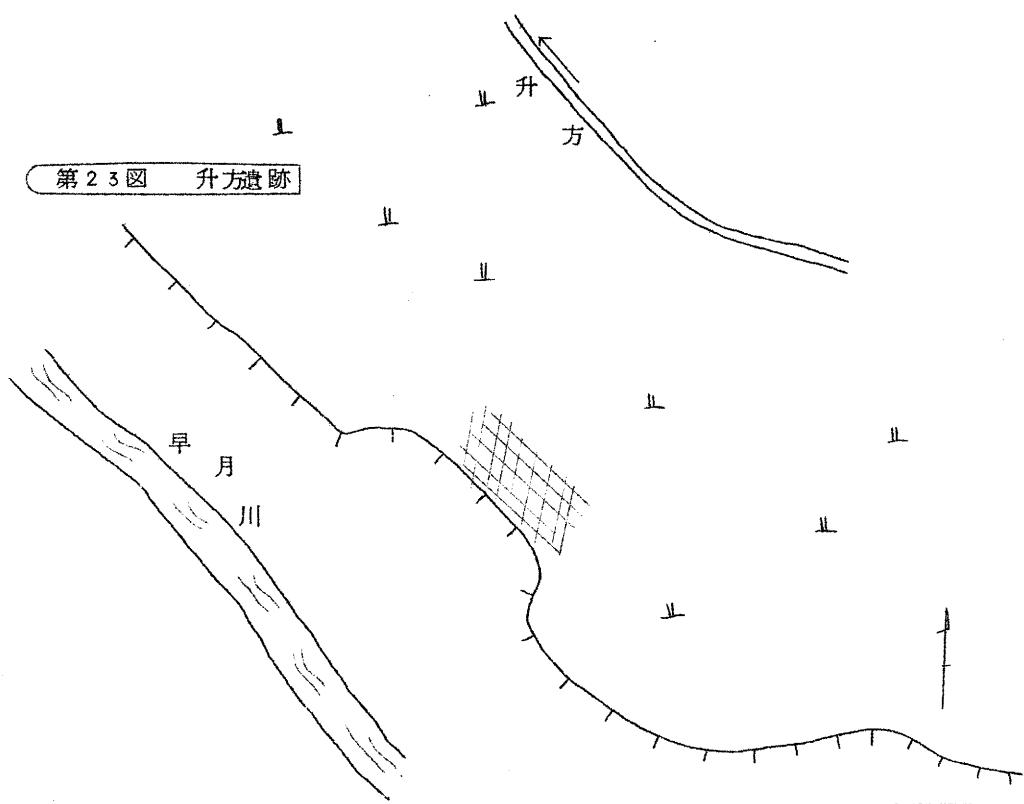
第21図 宮津B遺跡



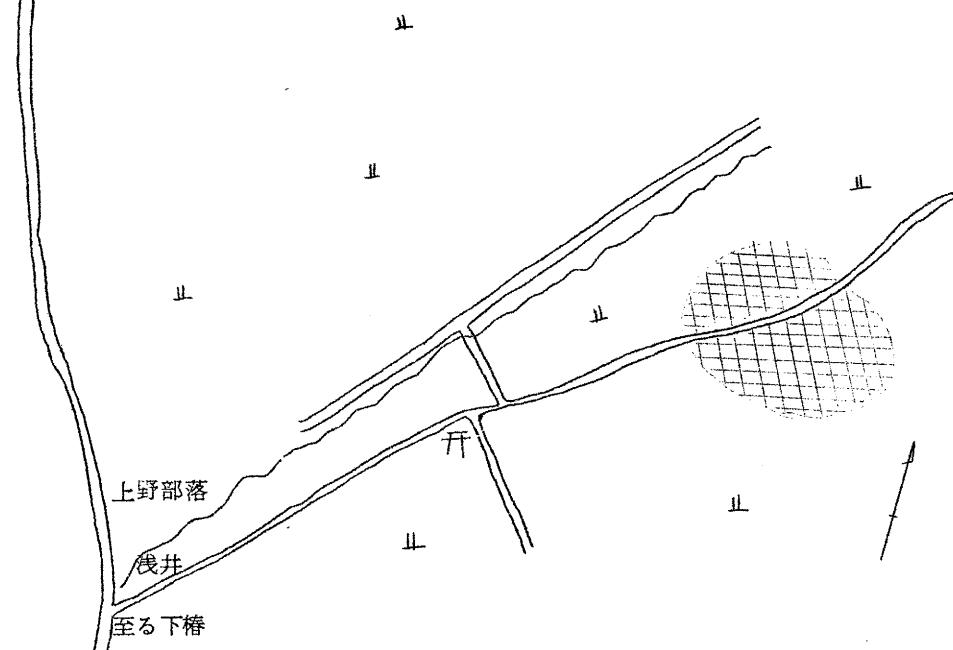
第22図 大光寺遺跡



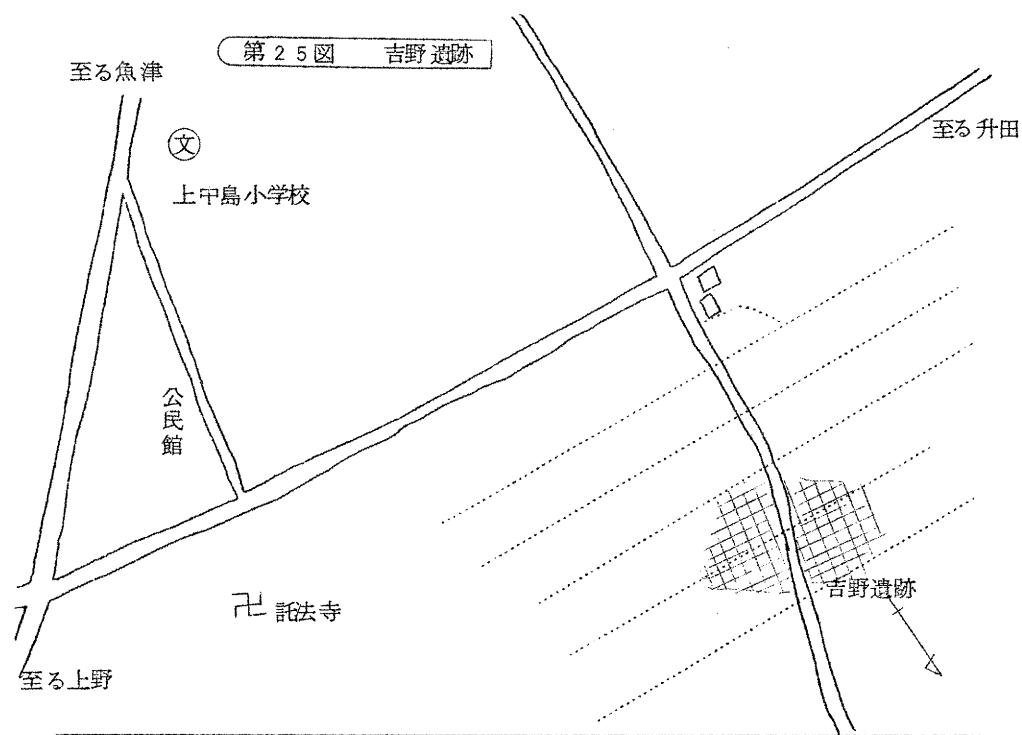
第23図 升方遺跡



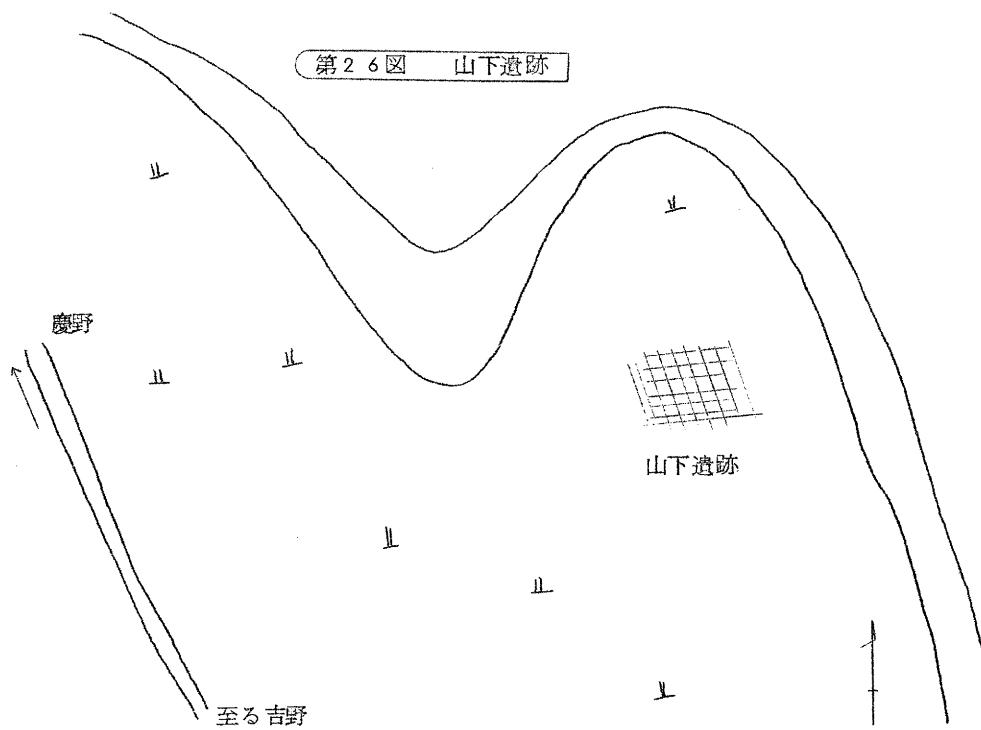
第24図 早月上野遺跡



第25図 吉野遺跡



第26図 山下遺跡



魚津市考古関係文献目録一覧

1973.3.31 調

発表者名	題名	発表機関名	発表年
富山県教育委員会	「桜峠遺跡調査報告書」①	富山県教育委員会	昭36
魚津市教育委員会	" ②	魚津市教育委員会	昭37
湊晨、大谷清瑞 広田寿三郎	「天神山遺跡調査報告書」	富山県教育委員会 魚津市教育委員会	昭34
魚津市教育委員会	「大光寺遺跡調査報告書」	魚津市教育委員会	昭42
魚津市石垣遺跡発掘調査団	「魚津市石垣遺跡発掘調査報告書」	魚津市教育委員会	昭46
富山県教育委員会	「石垣遺跡調査概報」	富山県教育委員会	昭47
木下福七	越中下新川郡天神山における石器時代遺跡	考古界 4-4	明37
大村正之	黒沢石器時代遺物包含地	富山県史蹟名勝天然記念物調査会報告	大13
小島俊彰	魚津市大光寺の馬高式土器	連絡紙 4	昭41
山本正敏	魚津市升方遺跡の紹介	連絡紙 21	昭42
藤田富士夫	魚津市本江繩文遺跡について	連絡紙 13	昭42
早川莊作	「越中史前文化」	中田書店	昭11
"	「越中石器時代民族遺蹟遺物」	中田書店	大15
"	「富山県の石器と土器」	清明堂書店	昭37
吉沢庄作	魚津埋設林	富山県史蹟名勝天然記念物調査会報告	昭14
森秀雄	「大昔の富山県」	清明堂書店	昭27
牧野正雄	「天神郷土考」	天神公民館	昭41
魚津市	「魚津市史」上巻	魚津市	昭43
下新川郡役所	「下新川郡史稿」上、下	下新川郡役所	明42
富山县	富山県史、考古へん	富山県	昭47

備考：埋蔵文化財遺物所蔵地

魚津市小川寺字天神山1070番地の甲 魚津市歴史民俗資料館

